











野菜の需給・価格動向レポート(平成26年10月20日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	9月の価格情報			10月の価格情報		生育及び価格の10月の見通し (台風18号及び19号の被害は一部でみられるが、現時点では全体の需給状況に及ぼす影響は限定的とみられる。)			
	平年価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格		平年価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格				
		中旬	下旬				上旬		
葉 茎 菜	キャベツ 	74.19	122	133	74.19	103	・入荷見込量: 15,380 (98) ・主産地: 群馬 (57)、千葉 (14)、岩手 (11)、茨城 (8)	・群馬産は、最近の気温上昇により一時的に出荷量は増加したが、全体的には生育はあまり良くないまま出荷終盤を迎え、今後は平年より少なめの出荷の見込み。千葉産は、台風の影響もなく、病害虫の発生もないことから概ね生育は順調であり、今後も引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。	
		88.91	126	137	88.91	107	・入荷見込量: 3,900t (97) ・主産地: 群馬 (56)、長野 (26)、茨城 (10)	・千葉産が平年よりやや多めの出荷が見込まれるものの、群馬産が平年より少なめと見込まれることから、価格は平年並みに近づくものの、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ) 	273.33	234	217	218.22	211	・入荷見込数量: 6,010t (100) ・主産地: 青森 (25)、秋田 (18)、北海道 (16)、茨城 (9)、山形 (9)、岩手 (7)、新潟 (3)、輸入 (3)、埼玉 (2)	・青森産は、病害の影響もほとんどなく、品質も良好で生育も概ね順調なことから、平年並みの出荷の見込み。北海道産は、残暑も少なく冷涼な気温となり生育は順調であることから、平年より多めの出荷の見込み。秋田産は、収穫作業が順調に行われたことから平年よりやや多めの出荷となっており、今後は平年並みの出荷の見込み。	
		487.13	472	513	444.77	490	・入荷見込数量: 170t (99) ・主産地: 香川 (22)、徳島 (16)、奈良 (13)、三重 (11)、大阪 (10)、高知 (10)	・青森産、北海道産及び秋田産の出荷が平年並み若しくは平年より多めと見込まれることから、価格は平年並み若しくは平年をやや下回って推移する見込み。	
	はくさい 	78.06	120	121	78.06	77	・入荷見込量: 14,830t (98) ・主産地: 長野 (75)、茨城 (13)、北海道 (8)	・長野産は、最近の気温低下に伴い生育は停滞気味であることから、今後は平年並み若しくは平年よりやや少なめの出荷の見込み。茨城産は、残暑も少なく病害虫の発生も少ないことから、生育は順調で平年よりやや多めの出荷の見込み。	
		88.72	119	128	88.72	75	・入荷見込量: 5,700t (95) ・主産地: 長野 (96)	・茨城産の出荷は平年より多めと見込まれるものの、長野産の出荷は平年並み若しくは平年よりやや少なめと見込まれることから、平年を下回っていた価格は、10月中旬以降平年の価格水準が下がる時期であることもあり、平年並みに推移する見込み。	
	ほうれんそう 	583.95	692	580	350.10	457	・入荷見込量: 1,360t (100) ・主産地: 群馬 (41)、茨城 (17)、栃木 (14)、千葉 (8)、岩手 (7)、埼玉 (5)	・群馬産は、作付面積が施設もので減少する一方、露地ものが増加し、生育も順調であることから、平年並みの出荷の見込み。栃木産は、台風の影響は特段みられず、生育は概ね順調で平年並みの出荷の見込み。茨城産は、生育は順調で平年よりやや多めの出荷の見込み。	
		670.86	779	655	419.76	526	・入荷見込量: 540t (101) ・主産地: 岐阜 (68)、和歌山 (8)、北海道 (6)、奈良 (6)	・茨城産が平年よりやや多めの出荷が見込まれ、群馬産及び栃木産も平年並みの出荷が見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づく見込み。	
	レタス (結球) 	158.27	248	211	158.27	97	・入荷見込量: 8,740t (100) ・主産地: 茨城 (61)、長野 (25)、栃木 (6)	・茨城産は、干ばつ気味であったが、台風に伴う降雨もあって生育は回復し、平年並みの出荷の見込み。長野産は、最近の気温低下などの影響により、生育は停滞気味で少なめの出荷となっており、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。	
		152.57	263	227	152.57	95	・入荷見込量: 1,550t (98) ・主産地: 長野 (57)、茨城 (24)、兵庫 (12)	・茨城産及び長野産の出荷が平年並み若しくは平年より少なめと見込まれることから、平年を下回っている価格は、平年並みに近づく見込み。	
たまねぎ 	76.15	97	83	76.15	76	・入荷見込量: 11,360t (105) ・主産地: 北海道 (91)、輸入 (5)	・北海道産は、収穫は9月末で終了し、今後は選別・調製を経た計画的な出荷となるが、一部の産地では小玉傾向であるものの、平年並みの出荷の見込み。		
	76.15	101	80	76.15	80	・入荷見込量: 3,500t (108) ・主産地: 北海道 (60)、兵庫 (36)	・北海道産の出荷は概ね平年並みと見込まれることから、価格は引き続き平年並みに推移する見込み。		
果 菜	きゅうり 	210.69	283	286	262.75	197	・入荷見込量: 5,810t (100) ・主産地: 埼玉 (25)、群馬 (24)、茨城 (13)、福島 (13)、栃木 (6)	・埼玉産及び群馬産は、作付面積の減少により引き続き平年より少なめの出荷の見込み。茨城産は、8月後半の天候不順の影響で生育はやや遅れていたが、10月の好天で回復し、概ね平年並みの出荷となっているが、今後は、10月末の切り上がりに向けて平年より少なめの出荷の見込み。	
		221.71	299	279	284.72	203	・入荷見込量: 1,100t (97) ・主産地: 宮崎 (20)、北海道 (15)、群馬 (15)、大阪 (14)、愛媛 (9)、福島 (6)	・埼玉産、群馬産及び茨城産の出荷が平年より少なめの出荷が見込まれることから、平年を下回っている価格は、平年並みに推移する見込み。	
	トマト (大玉) 	229.51	356	512	315.83	330	・入荷見込量: 6,450t (98) ・主産地: 千葉 (23)、茨城 (16)、福島 (11)、青森 (11)、愛知 (7)、群馬 (5)	・千葉産は、現在は平年よりやや多めの出荷となっているが、今後は抑制タイプの出荷が減少することから平年よりやや少なめの出荷の見込み。茨城産は、気温低下と曇天の影響から現在は回復して平年並みの出荷となっており、今後も引き続き平年並みの出荷の見込み。福島産は、好天により遅れていた着色も回復し、平年並みの出荷であったが、今後は出荷終盤でもあり、平年より少なめの出荷の見込み。	
		271.33	385	501	337.88	383	・入荷見込量: 1,200t (82) ・主産地: 北海道 (26)、岐阜 (22)、熊本 (18)、岡山 (7)、石川 (6)	・千葉産、茨城産及び福島産の出荷が平年並み若しくは平年より少なめと見込まれることから、平年を下回っている価格は平年並みに推移する見込み。	
	なす 	209.55	361	286	301.00	202	・入荷見込量: 2,910t (95) ・主産地: 高知 (35)、栃木 (17)、群馬 (16)、茨城 (14)、福岡 (5)	・高知産は、天候に恵まれ生育は順調であり、台風による大きな被害もないことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。栃木産は、生育は良くなく、台風の風による影響で品質の低下も見られ、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。群馬産は、草勢が弱く、成り疲れなど生育はあまり良くなく、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。	
		221.72	310	217	263.21	168	・入荷見込量: 650t (98) ・主産地: 高知 (24)、徳島 (14)、大阪 (13)、熊本 (10)、岡山 (9)、山梨 (7)	・高知産の出荷は概ね平年並みと見込まれるものの、栃木産及び群馬産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、平年を下回っている価格は、平年並みに近づく見込み。	
	ピーマン 	263.58	373	302	263.58	279	・入荷見込量: 1,940 (100) ・主産地: 茨城 (63)、岩手 (19)	・茨城産は、現在は平年よりやや少なめの出荷となっており、今後は気温の低下に伴い引き続き平年より少なめの出荷の見込み。岩手産は、終盤期を迎え、現在は平年並みの出荷となっており、引き続き平年並みの出荷の見込み。	
		282.16	403	332	282.16	296	・入荷見込量: 500t (94) ・主産地: 茨城 (20)、青森 (17)、高知 (9)、愛媛 (8)、大分 (8)、宮崎 (8)	・岩手産の出荷が平年並みと見込まれるものの、茨城産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、価格は平年並み若しくは平年をやや上回って推移する見込み。	
	根 菜	だいこん 	94.60	115	108	64.33	87	・入荷見込量: 13,910t (100) ・主産地: 北海道 (36)、青森 (33)、岩手 (5)	・北海道産は、現在は平年よりやや多めの出荷となっているが、主力の産地が切り上がったことから、今後は平年よりやや少なめの出荷の見込み。青森産は、台風や長雨の影響もなく、品質は良好で生育は概ね順調となり、平年並みの出荷の見込み。
			100.39	117	107	76.48	85	・入荷見込量: 4,300t (100) ・主産地: 北海道 (31)、石川 (31)、青森 (12)、新潟 (10)、岩手 (8)	・北海道産の出荷が平年より少なめと見込まれるものの、青森産の出荷が平年並みと見込まれることから、平年をやや上回っている価格は、平年並み若しくは平年をやや上回って推移する見込み。
にんじん 		123.08	108	99	123.08	93	・入荷見込量: 8,740t (100) ・主産地: 北海道 (93)、輸入 (2)	・北海道産は、冷涼な気温により病害虫の発生もなく生育は順調で、品質も安定しており、平年よりやや多めの出荷となっており、今後も引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。	
	123.11	109	100	123.11	96	・入荷見込量: 2,800t (100) ・主産地: 北海道 (99)	・北海道産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、価格は引き続き平年を下回って推移する見込み。		

種類	9月の価格情報			10月の価格情報		生育及び価格の10月の見通し (台風18号及び19号の被害は一部のみみられるが、現時点では全体の需給状況に及ぼす影響は限定的とみられる。)
	平年価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格		平年価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	
		中旬	下旬			
いも	242.66	314	263	200.88	247	・入荷見込量：1,300t (100) ・主産地：埼玉 (49)、千葉 (25)、輸入 (12)、栃木 (6)
	220.11	309	256	207.20	260	・入荷見込量：259t (-) ・主産地：愛媛 (48)、宮崎 (25)、輸入 (7)、福井 (7)
も	101.61	108	95	88.17	86	・入荷見込量：9,180 (105) ・主産地：北海道 (100)
	101.61	99	86	88.17	78	・入荷見込量：3,500t (87) ・主産地：北海道 (99)

注：1 平年価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均で(消費税は除く。)保証基準額の算定の基となる価格。  
2 旬別平均販売価格の赤字は平均価格を50%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く。)  
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック  
4 入荷見込量は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。( )内は前年対比。さといもは前年実績。  
5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。  
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。  
7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価格の一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス(結球)、トマトについてはトマト(大玉)の数値を用いている。

## 2 野菜の需要動向

家計調査によると、8月の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は、4,275gで前年比97%、購入金額は、1,846円で同106%となった。  
また、小売物価統計によると、9月のキャベツの小売価格は、221円で過去5か年平均比148%、レタスは、864円で同171%とともに過去5か年平均を大幅に上回った。

生鮮野菜の購入数量及び購入金額(1人当たりの購入数量と購入金額)

年	過去5か年平均		平成25年		平成26年	
	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	購入金額(円)
1月	4,252	1,595	4,243	1,669	4,379	1,775
2月	4,463	1,624	4,553	1,652	4,646	1,742
3月	4,836	1,772	4,961	1,769	4,903	1,861
4月	4,747	1,838	5,019	1,809	4,871	1,887
5月	5,103	1,902	5,257	1,861	5,146	1,993
6月	5,092	1,885	5,249	1,897	4,998	1,976
7月	4,423	1,712	4,456	1,783	4,542	1,770
8月	4,324	1,713	4,422	1,741	4,275	1,846
9月	4,768	1,803	4,577	1,863	0	0
10月	5,238	1,861	5,225	1,932	0	0
11月	4,993	1,671	4,852	1,806	0	0
12月	5,142	1,882	5,152	2,093	0	0

資料：総務省「家計調査報告(二人以上世帯(農林漁家世帯を)

主要野菜の小売価格(東京都区部)(単位：円/kg)

月	キャベツ			レタス		
	過去5か年平均	平成26年	5か年比(%)	過去5か年平均	平成26年	5か年比(%)
1月	198	267	135	673	684	102
2月	211	234	111	605	578	95
3月	200	200	100	498	459	92
4月	248	206	83	469	381	81
5月	169	175	104	371	351	95
6月	137	147	108	317	321	101
7月	153	173	113	322	338	105
8月	140	158	113	415	419	101
9月	149	221	148	506	864	171
10月	158	0	0	449	0	0
11月	162	0	0	421	0	0
12月	162	0	0	521	0	0

資料：総務省「小売物価統計調査報告」  
注：1 過去5か年平均は、平成21～25年の平均。  
2 平成26年9月の値は、9月中旬の速報値。

## 3 野菜の輸入動向

9月の野菜の輸入を植物防疫統計で見ると、たまねぎは、前年比92%(中国は同91%)の2万6千トン、にんじんは、同102%(中国は同106%、オーストラリアは同23%)の6千6百トン、ねぎは、同96%(中国は同96%)の4千6百トンとなった。たまねぎ及びねぎは前年をかなりの程度下回り、にんじんはわずかに上回った。

野菜の輸入数量

区分	平成24年		平成25年		平成26年1~8月		平成26年8月	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年同月比	前年同月比	前年同月比	
生鮮野菜	946,931	103	854,057	90	639,857	115	56,746	102
加工野菜	1,909,671	106	1,854,295	97	1,231,054	99	141,118	89
野菜合計	2,856,601	105	2,708,352	95	1,870,911	104	197,864	92
うち中国産野菜合計	1,458,418	103	1,415,901	97	940,389	105	108,981	96
中国産シェア	51		52		50		55	

資料：ペジ探(原資料)財務省「貿易統計」

主な野菜の輸入数量

品目	輸入先	平成25年9月(A)	平成26年9月(B)	(B)/(A)
		たまねぎ	合計	28,554
	中国	26,152	23,903	91
	米国	2,401	1,662	69
にんじん	合計	6,479	6,586	102
	中国	6,185	6,537	106
	オーストラリア	61	14	23
ねぎ	合計	4,791	4,617	96
	中国	4,789	4,614	96

資料：農林水産省「植物防疫統計」注：平成26年9月は、速報値。

## 4 トピック — 最近の冷凍野菜の需要動向 —

冷凍食品の国内流通量は、中国産の冷凍餃子事件の発生やリーマンショック後の景気後退もあり減少傾向であったが、内食志向の強まりによる家庭用需要の増加、業務用需要の回復から再び増加傾向にある。このため、最近の傾向を平成22年以降で見ると、冷凍野菜の国内生産量は、国産原料の作柄により若干の変動はあるが10万トン弱で推移する一方、冷凍調理食品は国産、輸入ともに増加傾向にある。

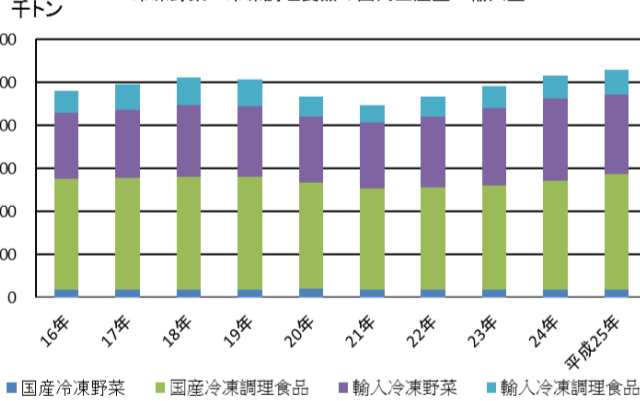
冷凍調理食品の動向を、家計調査の1人当たり購入金額をもとに見ると、最近10年間は増加傾向にある。また、世帯主の年齢階層別に見ると、40歳代では他階層に比べて高い水準が維持されているほか、最近では特に50歳代の増加が著しいという特徴がみられる。さらに、各年齢層の10年間の加齢に伴う購入金額の変化を見ると、40歳代の伸びがもっとも大きく、次いで50歳代となっている。

一方、(一社)日本冷凍食品協会の「冷凍食品の利用状況実態調査結果」を見ると、お弁当を作っている人ほど冷凍食品の購入頻度が高くなっている。これらを踏まえると、高校生などの学生をかかえとみられる40歳代の親の世帯を中心に冷凍食品が多く活用されており、これらの世代が加齢後も冷凍調理食品を活用していることが伺える。

冷凍食品の需要は、冷凍調理食品を中心にその簡便性などから中高齢層を含めて今後も堅調に推移することが見込まれている。

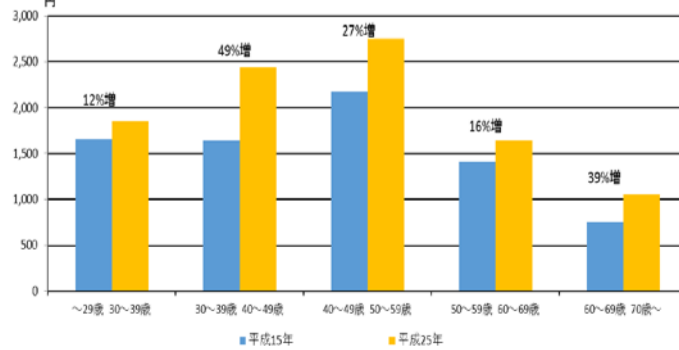
今回は、当機構が実施したPOSデータの調査をもとに、家計における冷凍野菜の消費動向について紹介する。

冷凍野菜・冷凍調理食品の国内生産量・輸入量



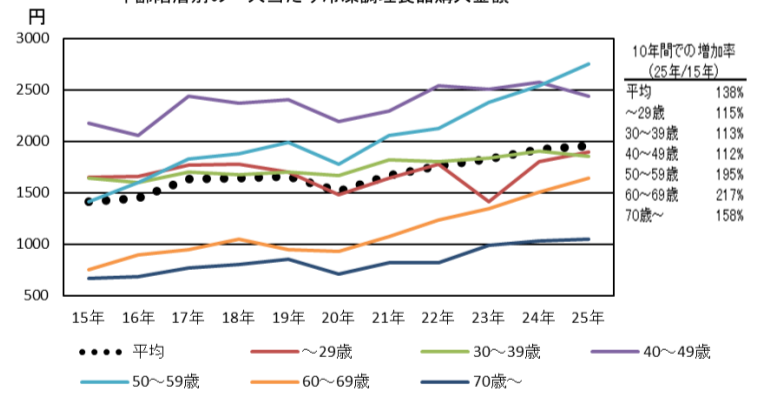
資料：総務省統計局「家計調査」

年齢階層別の1人当たり冷凍調理食品購入金額(平成15年の各年齢層の10年後の変化)



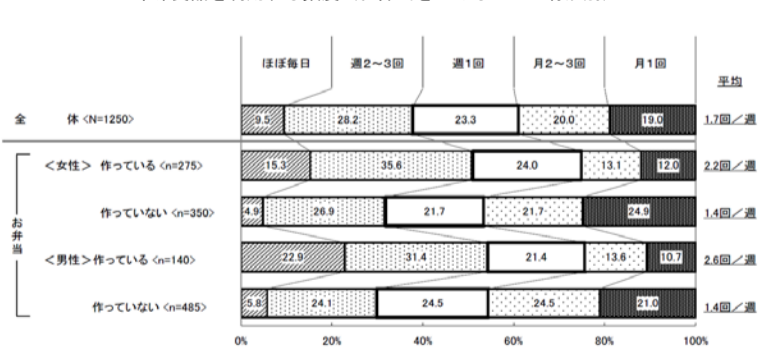
資料：総務省統計局「家計調査」

年齢階層別の1人当たり冷凍調理食品購入金額



資料：総務省統計局「家計調査」

冷凍食品を利用する頻度(お弁当をつくることの有無別)



資料：日本冷凍食品協会「“冷凍食品の利用状況”実態調査について(平成26年4月)」

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産振興機構 野菜需給部 需給業務課 前川、河原、斎藤、海老沼 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。  
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はペジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。  
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、[http://vegetan.alic.go.jp/vegetable\\_report.html](http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html)に掲載しています。